

認 定 書

国 住 指 第 881 号
令和 2 年 9 月 23 日

JFE 建材株式会社
代表取締役社長 久保 亮二 様

国土交通大臣

赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060FL-0214
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名
普通コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 荷重及び支持間隔
・床の支持間隔：2,200 mm以下とする。
自重を含めた全荷重：13.74kN/m²以下
注）全荷重＝固定荷重＋積載荷重

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床版	デッキプレート 規格：JIS G 3352(デッキプレート) 鋼板の種類：SDP1T※、SDP1TG※、SDP2、SDP2G、SDP3 ※鋼板の厚さ 1.2 mm、1.6 mmに限る 鋼板の厚さ(mm)：1.0～1.6 山高さ(mm)：50±1.5 働き幅(mm)：300-2, +8、600-2, +8 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 コンクリート 規格：JIS A 5308(レディーミクストコンクリート) 種類及び呼び強度(N/mm²)：普通コンクリート(呼び強度：21～45) 厚さ(mm)：80～130(デッキプレート山上からの厚さ) 床版の総厚(mm)：130～180 支持条件：単純支持又は連続支持
ひび割れ拡大防止 用鉄筋	仕様：①又は②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径(mm)：6 以上 間隔(mm)：150 以下×150 以下 かぶり厚さ(mm)：30 以上（コンクリート上面から） ②鉄筋（異形鉄筋） 材料名及び規格：(1)又は(2)のいずれかとする。 (1)鉄筋コンクリート用棒鋼（JIS G 3112） (2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼（JIS G 3117） 直径(mm)：D10 以上 配筋間隔(mm)：200 以下×200 以下(ただし、D13 以上は 300 以下×300 以下) かぶり厚さ(mm)：30 以上（コンクリート上面から）
スペーサー	種類：①又は②のいずれかとする。 ①鉄材 径、厚さ(mm)：5.5 以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上) 配置間隔(mm)：1,000 以下 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔(mm)：1,000 以下

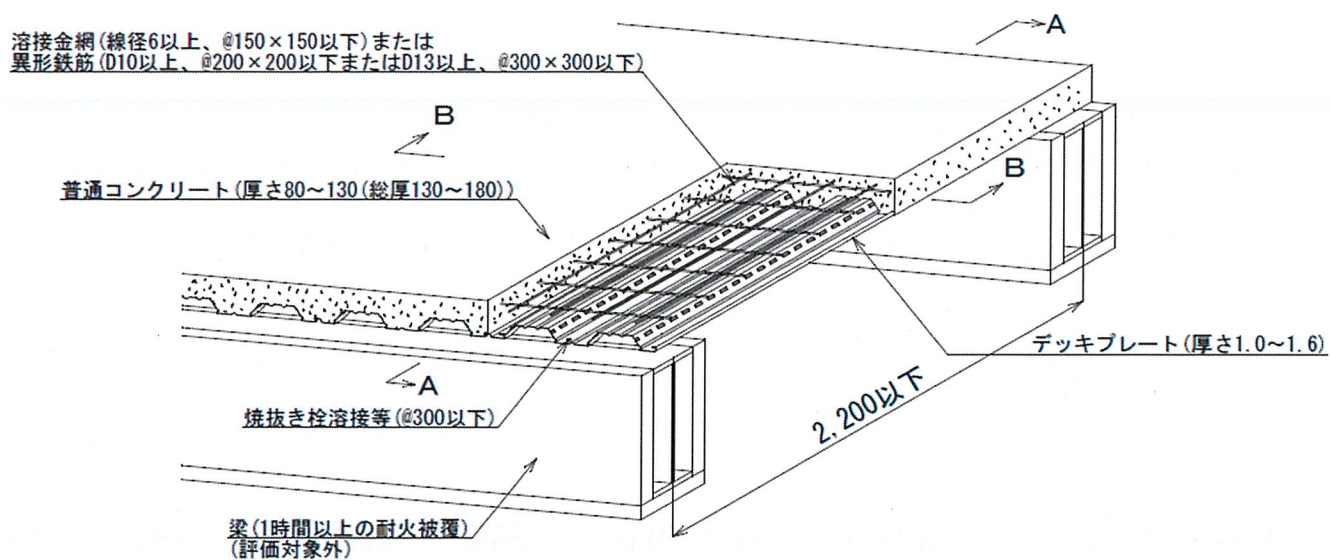
項 目	製 品 仕 様
梁とデッキプレート及び梁と床版の接合方法	仕様：①又は②のいずれかとする。 ①打込み鉚 寸法(mm)：φ4.5 留め付け間隔(mm)：300 以下 ②焼抜き栓溶接 寸法(mm)：φ18 以上 留め付け間隔(mm)：300 以下 梁とデッキプレート端部のかかり代(mm)：50 以上

4. 構造説明図

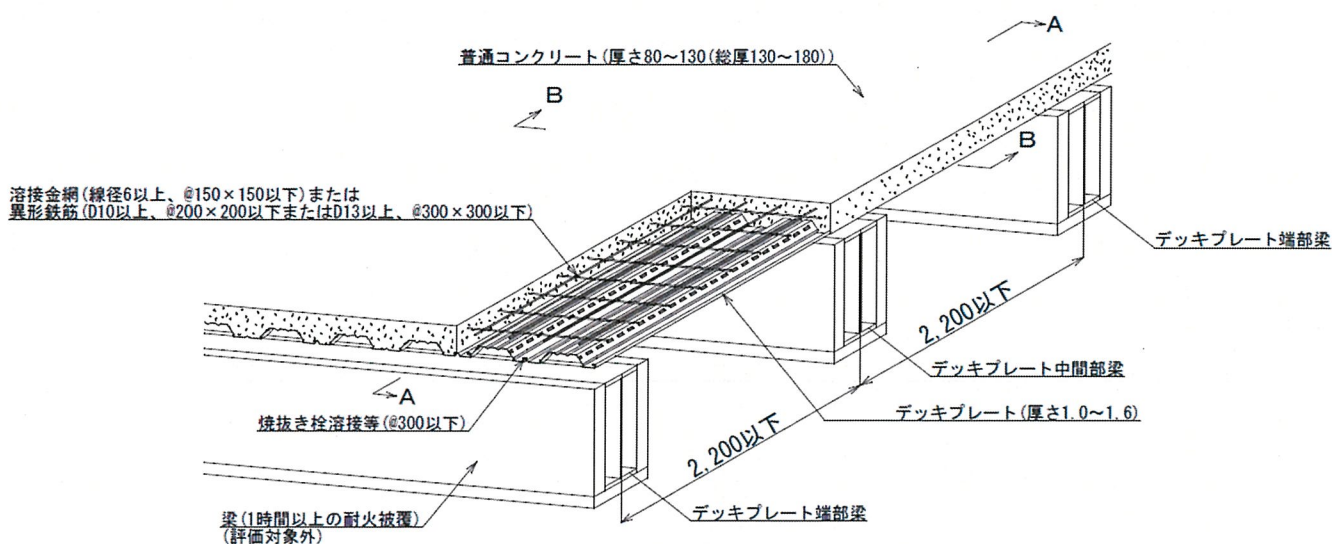
(1) 透視図

(単位: mm)

(1) -1 デッキプレートが単純支持の場合



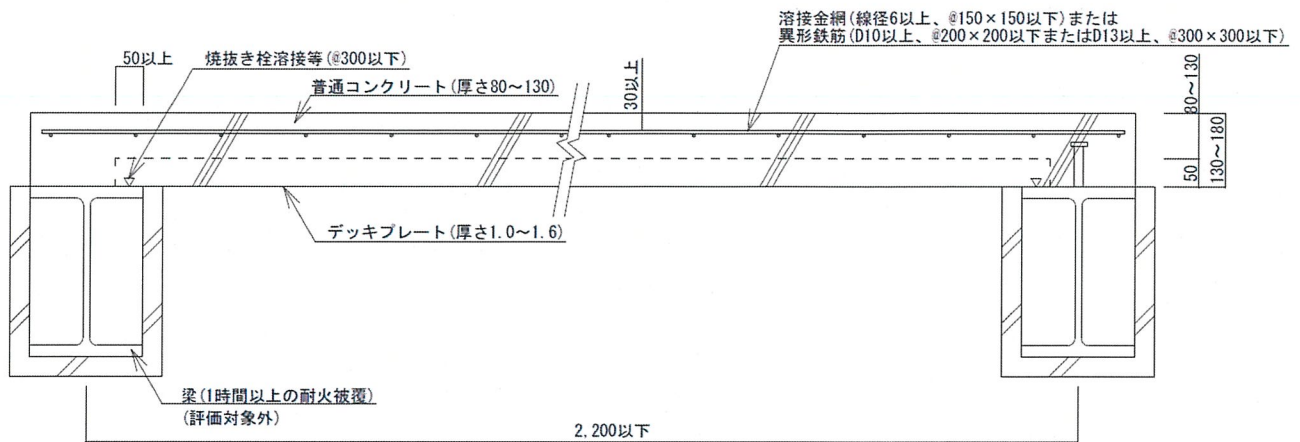
(1) -2 デッキプレートが連続支持の場合



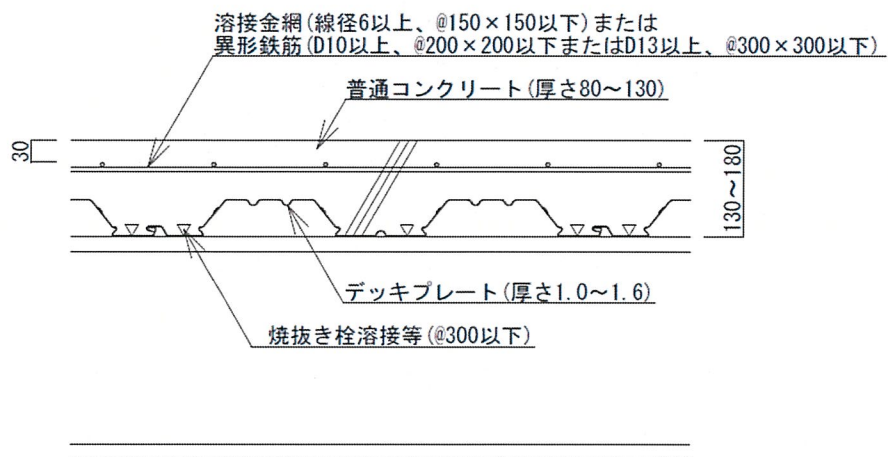
(2) 断面図

(単位：mm)

(2) -1 デッキプレートが単純支持の場合

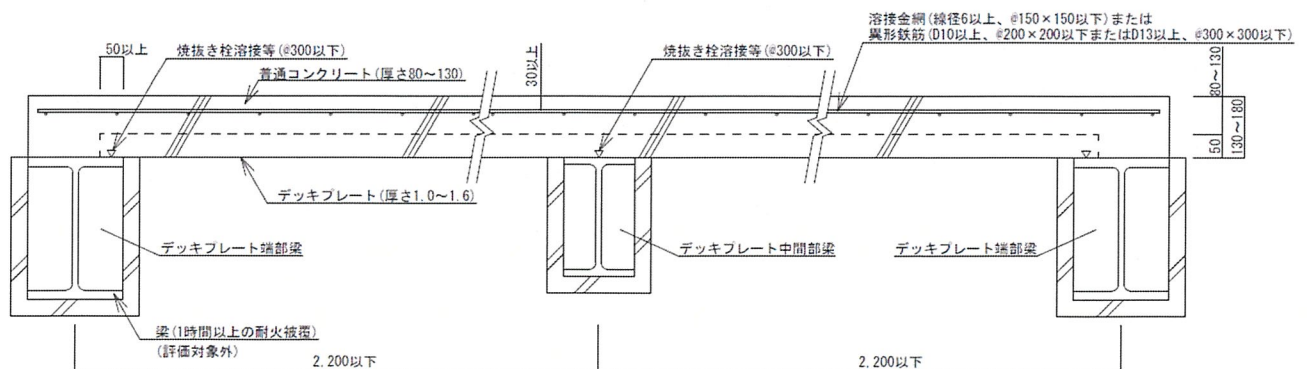


A-A断面図

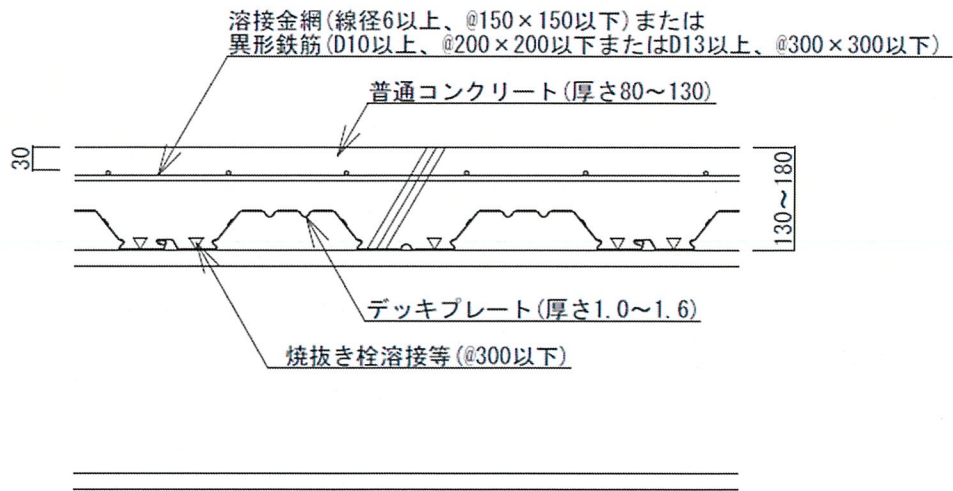


B-B断面図

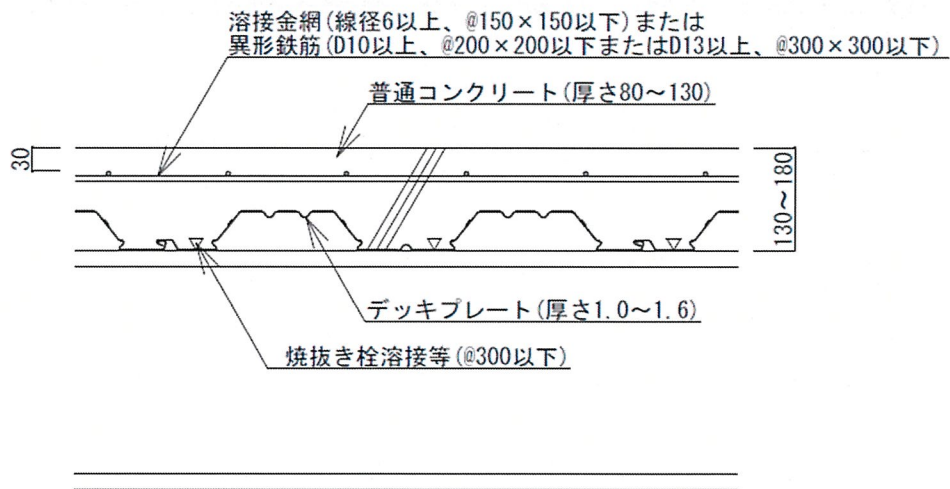
(2) -2 デッキプレートが連続支持の場合



A-A断面図



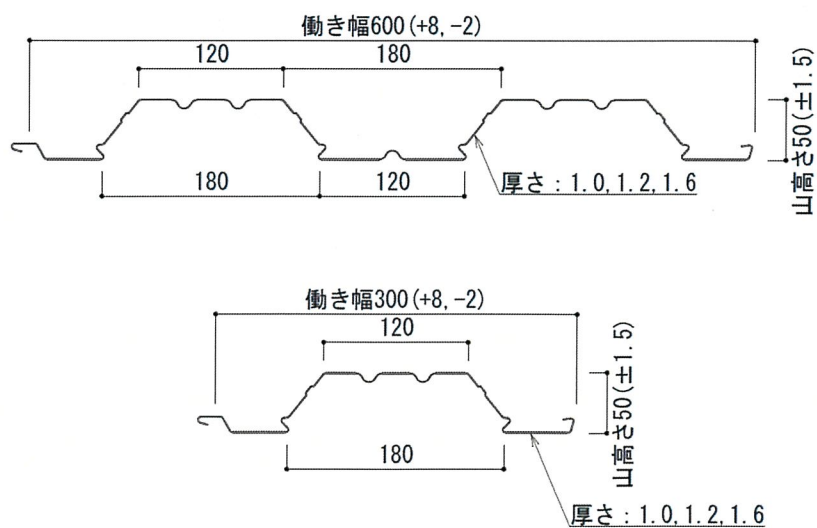
B-B断面図 (デッキプレート端部梁の場合)



B-B断面図 (デッキプレート中間部梁の場合)

(3) デッキプレートの形状及び寸法

(単位: mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷き込み

デッキプレートを設置する梁芯相互の間隔は 2,200 mm 以下、デッキプレートの端部と梁とのかかり代は 50 mm 以上とする。デッキプレート床構造設計・施工規準 2018（(一社)日本鋼構造協会）に示された管理方法や施工手順に従いデッキプレートを敷き込み、デッキプレートと梁とを仮止めする。

(2) 梁とデッキプレート及び梁と床版との接合

梁とデッキプレート及び梁と床版とは、次のいずれかの方法で接合する。

a. 焼抜き栓溶接による接合

焼抜き栓溶接の接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定、又は「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）によるものとする。

b. 打込み鉋による接合

打込み鉋の接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定、又は「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）によるものとする。

(3) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

(4) デッキプレートの小口処理

必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー(配置間隔 1,000 mm 以下)を用いて、床版上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm 以上となるように床全面に敷き並べる。

溶接金網は線径 6 mm 以上とし、間隔がそれぞれ 150 mm 以下のものとする。異形鉄筋は、D10 以上、タテ、ヨコ間隔 200 mm 以下または D13 以上、タテ、ヨコ間隔 300 mm 以下で、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法等）によるか、または、JASS 5 の記載例による。

(6) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、溶接金網または異形鉄筋の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(7) コンクリートの仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(8) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。